

## 子どもの健全育成に関する児童館の機能価値の研究

富田久枝 (児童学科・准教授)	川口和英 (家政保健学科・准教授)
白川佳子 (初等教育学科・准教授)	鈴木 樹 (教育学科・准教授)
田爪宏二 (子ども心理学科・准教授)	西島大祐 (初等教育学科・講師)
平井悠介 (児童学科・講師)	藤井佳世 (教育学科・講師)
米山 弘 (児童学科・教授)	野中賢治 (本学非常勤講師)
望月重信 (明治学院大学)	大滝世津子 (東京大学大学院博士課程)

### 1. 研究目的 (問題と目的)

本学では、小学校教員、幼稚園教員、保育士といった教育に携わる人材の育成を行っているが、児童福祉の新たなエキスパートとして注目される児童厚生員の育成も行っている。このような大学は日本でも有数であり、これからの人材育成やより良い教育環境について検証し提言をしていく使命を担っているとも言える。

近年、子どもを取り巻く環境は、社会の激しい変化に伴い、悪化の一途を辿っている。子育て不安や虐待といった子育ての基地である家庭の機能が危ぶまれ、居場所を失った子どもたちは、引きこもり、不登校、いじめ、非行といった問題行動を引き起こし、深刻な局面を迎えている。このような現象の中で、地域の教育力が見直され、児童館の機能の拡充が試みられている。児童館は児童福祉法第40条に基づき、子どもや家庭を支援するために作られた施設であり、子育て支援の拠点としても最近、注目を浴びている。子どもたちが健やかに成長していくために、それを温かく育む環境として、地域の核となる施設として期待されている。しかしながら、児童館はこのように地域に根ざし、子どもたちの健全育成の拠点として注目されているが、その社会的な機能や価値について客観的にまだ検証されていない。そこで本研究では以下2つの目的で研究を進めていこうと考えている。

- (1) 児童館が実際、社会でどのような役割を担い、どのような価値を生み出しているかといった機能価値について国内・海外の実態を検証し、これからの児童館の新しい方向性を模索、提案する。
- (2) 期待される社会的機能価値に貢献できる人材育成の方法や内容を提言する。

### 2. 研究計画 (平成19年度：研究1年目)

- (1) 先行研究の検討 (文献・資料等)
- (2) 国内・海外の実態調査  
フィールドワーク、アンケート調査等

### 3. 研究の結果と考察

#### (1) 研究会の開催

本研究グループは月1回を原則として本学において研究会を開催し、各自の研究成果を発表したり、文献講読等を行ってきた。成果としては、研究メンバーとの親交を深め、本研究の目的を共有し、研究の進捗状況を相互に検討する良い機会となった。

## (2) 国内・海外の実態調査

## &lt;国内における実態調査&gt;

今年度は研究初年度であり、研究メンバーの児童館に対する認識にばらつきもあるため、国内の児童館（目黒区を中心に）視察を実施した。以下に視察した児童館および視察者について報告することとする。

視察の観点として、児童館の概況、児童館が行っている取り組み（子育て支援活動も含む）、地域コミュニティと児童館との関連性について、その他気づいたことの4項目から実態を明らかにしようと考えた。

- ① 平成19年7月6日（金）午前10時～11時  
鶴沼こどもの家（鶴っ子とりで）：神奈川県  
視察者：白川佳子、平井悠介
- ② 平成19年11月16日（金）午前10時～11時  
烏森住区センター児童館：目黒区  
視察者：平井悠介
- ③ 平成19年11月16日（金）午後1時～2時  
上目黒住区センター児童館：目黒区  
視察者：平井悠介  
※ 午後6時～7時  
視察者：富田久枝
- ④ 平成19年11月16日（金）午後1時～2時  
八雲住区センター児童館：目黒区  
視察者：藤井佳代
- ⑤ 平成19年11月16日（金）午後2時～3時  
向原住区センター児童館：目黒区  
視察者：藤井佳代
- ⑥ 平成19年11月19日（月）午前10時～11時  
駒場児童館：目黒区  
視察者：白川佳子
- ⑦ 平成19年11月20日（火）午前9時30分～10時30分  
中目黒住区センター児童館：目黒区  
視察者：西島大祐、大滝世津子
- ⑧ 平成19年11月20日（火）午前11時～12時  
区民センター児童館：目黒区  
視察者：西島大祐、大滝世津子
- ⑨ 平成19年11月20日（火）午前10時～11時  
五本木住区センター児童館：目黒区  
視察者：田爪宏二
- ⑩ 平成19年11月27日（火）午後4時～5時  
緑ヶ丘児童館：目黒区  
視察者：鈴木 樹、大滝世津子

## ⑪ 平成20年2月13日（水）午後10時～11時30分

大野南こどもセンター：相模原市

視察者：川口和英

上記の児童館について、各視察者が報告書をまとめ、12月の定例会で発表を行った。これらの各報告書をもとに、全国対象で行う児童館アンケート作成を行おうと考えている。

## &lt;海外における実態調査&gt;

## ① 視察日程

8月31日（金）

ボストン・チルドレンズ・ミュージアム

9月1日（土）

マンハッタン・チルドレンズ・ミュージアム

9月2日（日）

ブルックリン・チルドレンズ・ミュージアム

9月2日（月）

セントラルパーク内 アドベンチャープレイグラウンド

## ② 視察者：白川佳子、西島大祐

## ③ 視察結果

今回はアメリカの東海岸を中心に、チルドレンズ・ミュージアムとアドベンチャーランドを視察した。これらの施設は、日本でも近年急速に増えつつある「大型児童館」のモデルになっているものもある。しかし、地域密着型の現在の日本における小型児童館とはその機能価値が全く違うことが分かった。しかしながら、結果の整理はまだ不十分であり、これから、日本において求められる児童館の価値機能と今後比較検討し、さらに結果を整理し検証を進めていきたい。

## (3) 19年度の研究の結果と考察

平成19年度にスタートしたばかりの研究グループで、児童館の実態を把握し、理解する1年であったと考える。児童館の視察はほぼメンバーの大半が参加し、それぞれの具体的な視察体験をもとに、20年度実施しようと考えているアンケート調査の作成に当たる予定である。児童館の視察を通してメンバーが総じて感じたことは、それぞれの地域の特性を生かし、各児童館が創意工夫をして地域の子どもたちの健全育成にあたっているという実態を実感として理解できたことは有意義であった。しかし、神奈川の一部と目黒区を中心としておこなった視察であり十分とは言えない。次年度は児童福祉法に則り運営されている小型児童館を中心に、比較検討として特徴的な大型児童館も数館視察を実施し、19年度の視察から得た知見をさらに深めて行きたいと考える。

本研究は、鎌倉女子大学学術研究所助成研究「子どもの健全育成に関する児童館の機能価値の研究」の平成19年度中間報告である。